



横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

社会福祉法人 横浜鶴声会

えみ保育園

平成 28 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	7
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	12
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	13
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	14
評価領域Ⅵ 経営管理.....	15
利用者家族アンケート分析.....	16
利用者本人調査.....	20
事業者コメント.....	22



実施概要

事業所名	えみ保育園
報告書作成日	平成 28 年 3 月 14 日 (評価に要した期間 4 カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成 27 年 11 月 2 日～12 月 24 日】
 - ・趣旨などの説明後、常勤、非常勤の全職員がここで自己評価を記入した。
 - ・個々でまとめたものをリーダー会議で意見交換をしながら確認を行い、主任、園長とも話し合いながら、まとめた。
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：平成 27 年 12 月 1 日～12 月 15 日】
 - 配 付：全園児の保護者（73 家族）に対して、園から手渡した。
 - 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成 28 年 2 月 12 日、2 月 15 日】
 - 第 1 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長・主任）
 - 第 2 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査
(主任・リーダー保育士 2 名・常勤保育士 1 名・非常勤保育士 1 名・栄養士 1 名)
事業者面接調査（園長・主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成 28 年 2 月 12 日、2 月 15 日】
 - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。
 - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。



評価結果についての講評

【施設の概要】

えみ保育園は、東横線綱島駅、JR、京急線鶴見駅よりバスで10分ほどの自然に恵まれた住宅地の中にあり、平成25年4月、社会福祉法人横浜鶴声会によって開設されました。

園舎は、1階に事務室、相談室、園児用トイレ、3歳児、4歳児、5歳児の保育室と地域子育て支援コーナー、調理室、多機能トイレがあります。2階には0歳児、1歳児、2歳児の保育室と園児用トイレ、一時保育室があり、2階の各保育室はウッドデッキがあり、ウッドデッキから外階段を使用して直接園庭に出られます。園庭には砂場やロッククライミング式登り棒などの遊具があり、夏にはプール遊びができます。また、歩いて数分の所に第2園庭と5台分の駐車場があります。

定員は90名です。延長保育、一時保育を実施していて、開園時間は、平日は7時30分～20時00分、土曜日は7時30分～18時30分です。

保育理念は「・私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。・私たちは、一人ひとりの子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整え、健全な心身の発達を図ります。・私たちは、一人ひとりの子どもが人との関わりの中で、安心と信頼感をもち、ありのままの自分を受け入れることで、自己肯定感を育てていきます。・私たちは、地域のネットワークを作り、様々な社会資源を活用し、子育て支援を行ないます。」と定め、理念を基に保育姿勢を「・あたたかい見守りの中で心地よく過ごせる環境を提供しています。・一人ひとりの良さを伸ばせるように、育ちを援助していきます。・家庭との連携を密にして信頼関係を作り、子育ての楽しさを共感し合います。・家庭、保育園、地域が支え合って、子育ての輪を広げていきます。・緑豊かな環境を活かし、のびのびと楽しく活動します。」とし、保育目標を「・こころも体も元気な子・自分も友だちも大切にできる子・自分で考え、いきいきと活動できる子」としています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは元気に遊び、のびのびと園生活を楽しんでいます

子どもたちは園の周辺や獅子ヶ谷市民の森等、自然に囲まれた環境で思いっきり身体を動かし季節を感じて遊んでいます。年齢に応じて歩く距離を延ばし、調査日も1歳児の月齢の高い子どもは2歳児と一緒に散歩に出かけ、山のなだらかな斜面を登っていく姿が見られました。園庭では、3歳児がロッククライミング式の登り棒を巧みに登り、横へと渡っています。4、5歳児は園庭や第2園庭でドッジボールをしたり、鬼ごっこをして楽しんでいます。ドッジボール終了後、負けたチームの子どもたちが、勝ったチームのお友達に拍手をして、その行為を保育士は褒めていました。2歳児クラスでは砂場で遊んでいるとき、「いれて」が言えるよう援助していました。保育士は年齢に応じて子どもたちが気持ちを伝えることができるよう配慮し、子どもたちは、遊びを通じた友達との関わりの中で自分の気持ちを相手に伝えたり、相手を思いやりたりする気持ちを育てています。園内は子どもたちが楽しめる空間づくりが工夫されています。2階へ行く階段の踊り場にのぞき窓があり、そこから調理室が覗けるようになっています。階段を上った広い廊下には、絵本などが備えられた畳のスペースがあります。2階には各保育室を囲むように広いウッドデッキがあります。このように、子どもたちの興味やしたいことが大切に考えられている環境の中で、温かく見守られながら、子どもたちは園生活を楽しんでいます。

●活動ごとに“ねらい”を定める等、継続性を考えた保育が実施されています

園は保育の継続性を大切に考え、“ねらい”に基づいて活動し、それに沿って評価を実施しています。保育士の作成する月間指導計画や週案で、“ねらい”を定め、保育日誌などでは、振り返りが行われ、“自己評価”を記入しています。日々の散歩では、「歩く事になれて体を動かす」、「秋の自然に触れ、採集を楽しむ」、「歩くマナーを知り、体力をつける」等、行く場所が同じでも、それぞれに“ねらい”を持って、活動しています。年に一度開催される生活発表会では、発達段階や子どもの姿をふまえた視点から“ねらい”を定め、発表する内容を検討し、発表会の目的をはっきり示しています。

保育の質の向上を図るため、職員同士は常に日々の活動を報告して、同じ意識を持つよう努力しています。体操やピアノ、歌の得意な職員が教えたり、研修で習得したことを伝えあったりしながら、保育技術の吸収に努めています。また、牛乳パックでベンチを作ったり、業務用ラップの芯を使った乳児の室内用ジャングルジムを作る等、保育環境が豊かになるよう配慮しています。職員は保育室の使い方を日案で確認する等、常に職員間で連携を図り、柔軟に保育が進められる環境を作っています。

2. 工夫・改善が望まれる点

●保護者の意見や要望を汲み取り、情報提供の工夫が望まれます

園では、「園だより」、「食育だより」を毎月発行するほか、その日のクラス活動の様子を掲示板に貼りだし、活動の様子を写真で知らせる等、保護者に情報を提供しています。また、送迎時に保護者とコミュニケーションをとる時間を増やしたいとして、職員が法人に勤務時間の延長を申し入れ、改善する等、努力しています。しかし、利用者家族アンケートでは「送り迎えの際の子どもに関する情報」、「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」、「保育中にあったケガに対する保護者への説明やその後の対応」、「意見や要望への対応」の項目で、“どちらかといえば不満”“不満”の数値がほかの項目に比べて高くなっています。送迎時などに保護者から出された要望・意見のほか、連絡ノートに記載されたものや意見箱に入れられたものなども含めて、記録・分析などを行い、保護者の不安を取り除くような情報の伝え方のさらなる工夫等、サービスの向上を目指した取組が望まれます。

●人材育成の仕組みづくりが望まれます

職員の資質向上のために、園内研修を行うほか、横浜市などが行っている外部研修に多くの職員が参加しています。しかし、OJT（現場学習）や自己啓発を含めた資質向上への取組を明示した人材育成計画は作成されていません。園として人材育成方針を明らかにして、初任職員・中堅職員・リーダークラス職員・主任クラス職員等、経験・能力や習熟度に応じた期待水準を明文化することが望まれます。また、職員一人一人の資質向上に向けた目標を毎年設定して、目標に向かって計画的に取り組むことが期待されます。

●さらなる地域子育て支援が期待されます

保育士や子どもたちは散歩で会った地域の人と挨拶を交わし、梅拾いや植物栽培で地域の人々と関わりを持っています。また、一時保育や園庭開放、マイ保育園（鶴見区独自）に取り組んでいますが、地域住民へ育児相談などの情報提供を積極的に発信していません。今後は保育園が培ってきた知識や経験を活かして、地域の子育て支援ニーズの把握に努めるため、定期的に相談日を設け、子育てに関する情報などを地域に発信していくことが期待されます。







分類別評価結果





3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある


評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重


評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果	
		
<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「・私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。・私たちは、一人ひとりの子どもが健康、安全で情緒の安定した生活が出来る環境を整え、健全な心身の発達を図ります。・私たちは、一人ひとりの子どもたちが人との関わりの中で、安心と信頼感をもち、ありのままの自分を受け入れることで、自己肯定感を育てていきます。・私たちは、地域のネットワークを作り、様々な社会資源を活用し、子育て支援を行ないます。」としています。保育姿勢を「・あたたかい見守りの中で心地よく過ごせる環境を提供していきます。・家庭との連携を密にして信頼関係を作り、子育ての楽しさを共感し合います。・家庭、保育園、地域が支え合って、子育ての輪を広げていきます。・緑豊かな環境を活かし、のびのびと楽しく活動します。」とし、保育目標を「・こころも体も元気な子 ・自分も友達も大切にできる子 ・自分で考え、いきいきと活動できる子」として利用者を尊重したものになっています。 ・毎年年度初めの職員会議で保育理念や保育姿勢、保育目標と保育所保育指針を全職員が理解するよう読み合わせをしています。また、理念などが記載されている業務マニュアルを全職員に配布しています。日常の保育は保育姿勢や保育目標に沿って、計画され、実施されています。 ・保育課程は、保育理念・保育姿勢・保育目標に基づき、一人一人の子どもの発達過程や家庭状況を踏まえるなど、子どもの最善の利益を第一義にしています。 ・言葉で伝えられない子どもは表情や態度から意思を汲み取るようにしています。言語化できる子どもからは考えや意見を聞き日々の保育に取り入れています。子どもの意見や要望を聞いて指導計画の見直しに活かしています。例えば、子どもたちからの意見を取り上げ梅の実ジャム作りを食育の計画に取り入れました。 ・保育課程の作成にあたっては、園長、主任が作成、見直しを行なっています。今後は全職員が関わる取組や保護者への説明が望まれます。 	<th data-bbox="1003 1417 1501 1471">評価結果</th>	評価結果
評価分類Ⅰ-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施		
<ul style="list-style-type: none"> ・入園前までの生育歴や家庭状況、保護者から見た子どもの姿、大切にしてきたことなどを事前に記入してもらい、入園前説明会で保護者と個別面接を行っています。把握された記録は日々の保育に活かされ、さらに保育中に気になることが出てきたときは、その記録をもとに保護者と話し合っています。 ・入園後の短縮保育（ならし保育）は通常1週間を予定していますが、子どもの様子や保護者の状況により柔軟に対応しています。 ・0、1、2歳児は所定の連絡帳を使用し、毎日の子どもの様子について丁寧な連絡を心がけ、保護者と連携を取っています。 ・月間指導計画や個別指導計画は、子どもの発達や状況に応じて作成し、評価や見直しをして、次の計画を作成しています。 ・指導計画の評価・改訂にあたっては、子ども一人一人の個人差を配慮して保護者の意向を反映するよう努めていますが、全ての保護者の意向を反映するまでには至っていません。 		



評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 園内外の清掃はマニュアルに沿って行われ、常に清潔に保たれています。園舎は保育室の窓がテラスや園庭に面し、通風・換気等が確保されています。保育室は窓のほか、廊下からの出入りロドアも全面ガラス(強化)でできており、陽光は十分取り入れられています。午睡時はカーテンを引き、調節しています。 • 0歳児保育室に沐浴設備があります。沐浴設備は汗をかいたり、汚れたとき等、通年を通して使用しています。使用後に清掃するほか、マニュアルに基づいて定期的に清掃・管理しています。室内の温水シャワーは使用時にその都度清掃するほか、マニュアルに基づいて定期的に清掃・管理しています。 • 低年齢児が安心して過ごせるよう、パーテーションなどで場所を区切る等、保育室の使い方を工夫しています。 • 幼児クラスの各保育室を仕切っている戸を開けるとホールになり、異年齢の交流の場となっています。また、一時保育室を乳児クラス用のホールとして使用し、0、1、2歳児が交流しています。散歩は日常的に異年齢で出かけています。行事はクリスマス会、運動会、遠足は全クラスで行い、ひな祭りなどは幼児クラスと乳児クラスの2部制で催しています。また、5歳児が乳児の着替えを手伝うなどの交流があります。 	
評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 3歳未満児については、子どもの生育歴や心身の発達を考慮して個別指導計画を作成しています。個別の目標、計画は定期的に見直したり、クラス会議で一人一人の子どもの発達状況に合わせて話し合いを行い、柔軟に変更・見直しを行っています。個別指導計画の作成・見直しにおいては、子どもの発達状況を保護者と話し同意を得て、連携を取りながら進めています。 • 子どもや家庭の個別の状況・要望は、「経過記録」、「児童票」、「児童健康台帳」に記録しています。また、入園後の子どもの成長発達記録としては「経過記録」に記載しています。 • 重要な申し送り事項は記録され、年度末の「引継ぎ会議」で新旧担任で伝達、引継ぎを行ないっています。 • 幼児の配慮を要する子どもに関しては、月間指導計画に個別の配慮事項を記載していますが、個別指導計画を作成するまでには至っていません。今後は、作成されることが望まれます。 	



<p>評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 保育課程の保育園の特色に“福祉保健センターや医療センターなどと連携しながら、ノーマライゼーションの精神をふまえ、障害のあるお子さんと健常児が共に過ごす統合保育を実施しています。”と明記して配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。特に配慮を要する子どもの個別のケースについては、職員会議で話し合いをして個別の記録（経過記録、保育日誌）に記録しています。 • 横浜市東部地域療育センターなどの巡回訪問の際、助言や情報を得ています。障害児保育の研修に参加した職員の研修報告を聞き、全職員が職員会議で話し合える体制ができています。今後はさらに障害の特性を考慮した個別指導計画を作成されることが望まれます。 • 虐待の定義、虐待防止が明記されたマニュアルを全職員に配布して周知しています。虐待が明白になった場合は、鶴見区こども家庭支援課に連絡する体制ができています。疑わしい場合や見守りが必要な場合は鶴見区こども家庭支援課、福祉保健センター、中央児童相談所などと連携をとっています。 • アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示を受け、適切に対応しています。食物アレルギーについては、入園時に医師の診断書と「保育所におけるアレルギー疾患生活管理表」を提出してもらい、保護者と連携を密にして除去食を提供しています。除去食を提供する場合は、個別の専用食器やトレイを使用し、調理職員と担任が確認して提供しています。 • 文化や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。子どもたちには地図を見せて、宗教の違いで豚肉が食べられないことなどを説明して理解できるよう配慮しています。言葉の理解が難しいときはジェスチャーなどで、意思の疎通を図っています。 	
<p>評価分類 I-6 苦情解決体制</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 要望・苦情の受け付けについては、入園時に配布される『保育園のご案内』の「苦情解決制度について」に沿って、保護者に説明を行っています。苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長となっています。また、第三者委員に直接苦情を申し立てできることが明記されています。ご意見箱が設置されており、懇談会などでも進んで要望や苦情を聞いています。行事後のアンケートの意見を報告書にまとめて保護者に公表するように努めています。 • 要望や苦情を受け付け対応するための仕組みは「苦情対応マニュアル」として文書化されており、第三者委員を交えて対応する仕組みが明記されています。過去の苦情・トラブルや要望は記録して、できることから改善するよう取り組み、解決に活かしています。 • 権利擁護機関などの他機関を紹介していません。横浜市福祉調整委員会やかながわ福祉サービス運営適正化委員会、行政の窓口などを『保育園のご案内』に記載したり、園内に掲示する等、保護者に周知し、外部の相談機関との連携体制をつくることが望まれます。 	


評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none">• 幼児クラスの保育室には作り付けの棚があり、子ども一人一人のロッカーにお道具箱が置いてあります。パズルやブロックなどのおもちゃは、子どもの目の高さに置いてあり、子どもが自分で取り出して遊ぶことができます。乳児クラスの保育室は、クッション性のあるマットを敷いています。また、つかまり立ちができるように手作りの仕切りが設置されています。おもちゃは年齢や発達に合うものを用意しています。幼児の自由遊びでは、リリアン編みやパズルなどのコーナーがあり、乳児は、手作りのジャングルジムなどがあります。• 保育士の絵本の読み聞かせを真似て、子どもが絵本の読み手になって遊んでいた様子を生活発表会の劇に取り入れています。また、5歳児は集団活動で染め紙を行ったことから、Tシャツ染めに展開する等、子どもの自由な発想を取り入れて、継続性のある活動を行っています。• ドッジボールやフルーツバスケットなどのルールのある遊びを活動に取り入れて、みんなで遊ぶ楽しさや友達関係、ルールを守ることを学んでいます。• 近隣の方の協力を得て園庭に畑を造り、3歳児クラスは朝顔とスイカ、4歳児クラスはトマトとラディッシュ、5歳児クラスは芋類を栽培しています。活動の中でスイカの絵を描いたり、朝顔の種を収穫しています。5歳児クラスでは、メダカの飼育もおこなっています。また、近隣の方に教えてもらい、梅の実を拾って梅ジュースを作りました。園の近くには、横浜市農村生活館みその公園「横溝屋敷」があり、子どもたちが散歩に行き、自然に触れる機会をつくっています。日々の活動は、「雨上がりの自然の様子を知り、関心を持つ」等、保育のねらいを明確にしています。• 子どもの年齢に合わせて、ひな人形や観察した梅の花などの表現活動をしています。表現活動のときには、色紙や折り紙、クレヨンなどのほか、綿棒を使って色を付ける等、さまざまな素材を使用しています。• 子ども同士のけんか等については、すぐに仲立ちをすることはなく、子ども同士で解決できるように見守り、必要に応じて仲介しています。子どもたちが保育室や園庭で遊んでいるとき、仲間に入る場面で、「入れて」という声をかける様子がどのクラスでも観察できました。乳児クラスでも、おもちゃの取り合いになったときは、保育士が仲介して、「かして」という言葉が聞かれています。• 登園後は、幼児クラスと乳児クラスに分かれて合同保育を行っています。異年齢で散歩に行くこともあり、5歳児は午睡後に乳児クラスの布団の片付けを手伝っています。2歳児は進級に向けて、登園後に幼児クラスで過ごしています。日々の活動の中で、異年齢の子ども同士が関わりが持てるようにしています。• 散歩や屋外活動などを積極的に取り入れています。室内での活動のあとには、園庭や第二園庭で遊んだり散歩に出かけたりしています。屋外活動のときは首までガードする帽子を被り、夏にはタープで園庭に日陰を作っています。また、3歳児の保育室の窓には、紫外線防止のフィルムを貼っています。2階のテラスにはカーテンがあり、紫外線対策のほか、室内の温度調整に役立っています。• 園庭には、ロックライミング式の登り棒が備えられています。また、缶ぼっくりはひもの長さを調節して、1歳児も使用しています。幼児クラスの子どもたちは、近隣の運動公園に行って、鉄棒を行っています。次年度から外部の講師に依頼をして、体操教室を行う予定です。	



評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔生活〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 食事は、子どもが自分の適量が分かるように促し、自分から食べようとする意欲を大切にし、時間内に食べられた満足感を味わえるように配慮しています。0歳児は、自らスプーンを持って、ときには手で掴んで食べる様子が見られます。保育士は、食べやすいように食べ物をスプーンにのせたり、声をかけたりしています。授乳するときや離乳食を食べさせるときは、子どものペースを尊重して行っています。 • 給食は外部の業者に献立立案から調理、盛り付けまでを委託しています。盛り付けの彩りや盛り付ける量に配慮し、見た目で食欲がわくように工夫しています。食事の場としての雰囲気づくりについては、クリスマスのときにツリーを飾ったり、音楽を流すなど、楽しく食べられるように配慮しています。食器は陶器を使用し、主菜を盛り付ける食器は、幼児と乳児で深さを変えて食べやすいよう配慮しています。食材については、冷凍物はなるべく使わず、横浜市内の商店から購入しています。主菜や副菜の盛り付けは調理室で行い、主食や汁物は保育室で保育士が行っています。5歳児は、当番が配膳をしていますが、今後は、子どもたちが自分で盛り付けをする等、食事やその課程に関心が持てるよう、さらなる工夫が望まれます。 • 子どもの好き嫌いについては、入園前の面談で保護者に聞き取りをして把握しています。また、週1回行っているリーダー会議の際に喫食状況について職員から栄養士に報告があり、調理方法や盛り付けなどの参考にし、今後の改善・工夫につなげています。 • 献立表は、委託先の業者から毎月20日までに次月分が提出され、園で確認後、保護者に配布しています。給食だよりに献立作成のポイントや旬の野菜などの情報、日々の給食の写真、レシピ等、玄関に掲示して知らせています。今後は、保護者が給食を試食できる機会を設けることが望まれます。 • 眠れない子どもや眠くない子どもには、午睡を強要することはなく、身体を休めることの大切さを知らせながら、静かに過ごせるように配慮しています。午睡の時間は室温管理に留意するほか、静かな音楽を流して心地よい眠りにつけるように工夫しています。乳幼児突然死症候群に対する対策として、0歳児は5分おき、1歳児は10分おきに呼吸・顔色・状態のチェックを行っています。5歳児は年明けから午睡を行っていませんが、連休明けや子どもの状況などにより、休息する時間を設けています。 • 排泄は、個別の排泄リズムをとらえ、個人差を尊重しています。トイレトレーニングは、1歳児クラスからトイレに座る習慣が身につくようにしています。その際は、保護者にも知らせて、個人差を尊重しながら対応しています。園での排泄の状況は、連絡ノートで保護者に知らせています。 	

<p>評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの健康管理に関するマニュアルは「えみ保育園保育マニュアル」の中に記載されています。保育者が適切な援助をするために、受け入れ時に健康状態を注意深く観察し、家庭との連携を密にしています。全身状態の観察として、顔色、表情、声の調子、全体の印象等を観察し、家庭での状況を詳しく聞いています。既往症については、入園時に保護者から情報提供をしてもらい、その後は半年ごとに担任が保護者に確認しています。園での子どもの健康状態については、乳児は連絡ノートと口頭で伝え、幼児は口頭で伝えています。保育中に起きたケガや体調不良などは、その後の家庭での様子を保護者から聞き取るように努めています。 • 食後の歯磨きは1歳児から指導を行い、1、2歳児は仕上げ磨きを行っています。3歳児は夏前までは仕上げ磨きを行い、その後は4、5歳児と同じく磨いたあとの確認をしています。 • 健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施して個別記録に残しています。健康診断の結果は口頭で保護者に伝え、歯科健診の結果は文書で知らせています。 • 感染症対応マニュアルがあり、感染症の出席停止基準が明記されています。「保育園のご案内」に載せて保護者に知らせています。保育中に感染症の疑いが生じたときには、速やかに保護者に知らせています。その際は、保護者の事情も考慮して迎えに来るまで相談室で休ませています。感染症に関する最新情報などは、鶴見区から情報提供があり、各保育室の掲示板に掲示して保護者に知らせていますが、保護者アンケートには感染症に関する情報提供が十分でないと感じている声がありました。今後は、保護者への情報発信についてさらなる工夫が期待されます。 	
<p>評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 「感染症対応マニュアル」に園内の衛生管理に関する項目があり、会議などで、衛生に関する項目の読み合わせをしています。嘔吐物処理方法については、年1回を目安として園内研修を行っています。保育室やおもちゃ、トイレなどの清掃・消毒方法がマニュアルに明記されていて、清掃などが行われていますが、清掃・消毒の実施記録がないので、今後は、清掃チェック表を活用するなどの工夫が期待されます。また、職員によるマニュアルの見直しを定期的に行うことが望まれます。 	




評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> 安全管理に関するマニュアルは、「えみ保育園保育マニュアル」に『安全確認』の項目があります。保育室の棚は転倒防止対策がされており、棚の上に物を置く場合は、滑り止めマットを使用しています。また、高い場所に物を置かないようにして、安全対策をしています。 マニュアルには、園庭遊び、室内遊び、プール遊び等、活動時の保育士の配慮と注意事項が明記されています。災害発生時の対応については、「えみ保育園保育マニュアル」の『子どもの安全・安心』の項目に、防災、防犯、交通安全の項目があり、ねらい・内容、配慮などが明記されています。災害等を想定した避難訓練は、毎月実施しています。地域の避難場所まで散歩を兼ねて行っています。また、9月には、災害発生時の引き渡し訓練を、保護者の協力を得て実施しています。緊急時の連絡については、職員と保護者ともに一斉にメール配信ができる体制を整えています。また、必要に応じて保護者のみ、職員のみに配信することができます。 救急受け入れができる医療機関の連絡先は事務室に掲示しています。保育中に起きたケガについては軽傷であっても、引き継ぎ簿に記録して保護者に報告するように努めています。乳児は連絡ノートにも記載して知らせるようにしていますが、報告漏れがないように記録簿に報告済のチェックを入れるなどの工夫が期待されます。事故が起きたときは、事故・ヒヤリハット報告書に残して、会議などで全職員に周知をしています。事故報告書には、事故発生時の保育環境の問題、設備環境の問題、保育方法の問題などの記載項目があり、今後の対策や再発防止につなげています。 玄関はオートロックになっています。園外に防犯カメラを設置して、不審者侵入に備えています。また、警備会社に夜間警備を依頼しています。不審者侵入に対するマニュアルがあり、不審者侵入を想定した訓練を実施し、不審者を確認したときの合言葉も決められており、すみやかに対応できる体制を整えています。近隣で発生した不審者情報については、鶴見区からメールで配信されます。また、保護者からも情報提供があり、一斉メールで知らせています。 	評価結果 
評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 「えみ保育園保育マニュアル」に「子どもの人権・人格の尊重と個人差に留意する」ことが明記されています。子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう会議などで保育の振り返りをしています。また、保育マニュアルには「子どもを甘やかす、わがままを許すことと、子どもの思いを受け止めることは違う」とし、子どもを否定することなく、一緒に考えて伝えていく姿勢を持つよう明記しています。 時間に余裕がないと、子どもをせかしてしまうことがないように、時間に余裕を持って取り組むよう、園では指導しています。しかし、せかしてしまうと感じている職員もいるため、全体で解決策を講じる必要があると捉えています。 1階、2階ともに畳のスペースがあり、友達や保育士の視線を意識せずに過ごすことができます。また、子どもによって気に入った場所があるため、必要に応じて仕切りを使用してプライバシーが守れる場所を提供しています。また、事務室や相談室などで子どもに威圧感を与えずに、一対一で話をすることができます。 守秘義務については、入社時に全職員に周知をしています。また、守秘義務についての誓約書を全職員が提出しています。実習生に対しても、園の個人情報ガイドラインをもとに説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報の取り扱いについては、個人情報ガイドラインがあり、保育マニュアルにも守秘義務について明記し、職員に周知しています。保護者には、「保育園のご案内」に明記して知らせています。今後はさらに、入園時の説明の際に個人情報の取り扱いについて保護者の同意を得ることが望まれます。 順番やグループ分け、整列などは、性別にしないよう指導しています。父親、母親の役割を固定的に捉えた話し方、表現はしないように指導しています。お父さん、お母さんではなく、「お家の人」という表現をするように心がけています。保育観察の際に、性別で声をかける様子があり、職員同士で振り返りや相互に配慮する仕組みをつくることが期待されます。

<p>評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p>	<p>評価結果</p>
	<p style="text-align: center;">  </p>
<ul style="list-style-type: none"> • 保育の基本方針は、「保育園のご案内」に保育目標、保育理念、保育姿勢を明記して保護者にらせています。懇談会のときにも保育方針などについて説明し、年度初めの園だよりには各クラスの保育のねらいを載せて、保育の基本方針が理解されるよう努力しています。行事開催後に保護者アンケートを実施していますが、今後はさらに、保育方針の理解度について把握することが期待されます。 • 日々の子どもの様子は引き継ぎ簿に記録して、お迎えのときに保護者に伝えていきます。0、1、2歳児は、連絡ノートでも排泄や睡眠等、園での様子を伝えていきます。個別面談は年2回実施し、グループ面談も実施して保護者との情報交換などを行っています。しかし、保護者アンケートには送迎時の情報交換が不十分と感じている声があり、情報提供の方法について、さらなる工夫が期待されます。 • 保護者からの相談は送迎時に受けることがあり、相談内容により相談室を利用しています。担任が相談を受けたときは、園長、主任に報告し、必要に応じて助言を受けています。相談室で相談を受けたときは、個人ファイルの支援経過に記録を残しています。 • 毎月、園だより、給食だよりを発行しています。日々の保育の様子は、各保育室入り口にある掲示板に掲示して知らせています。ときには、活動の様子を写真にして知らせています。園だよりにはクラスの様子、次月の保育目標などを載せて保育内容・目的を知らせています。また、年1回のクラス懇談会では、保育のねらいなどを説明しています。活動や行事のときの写真は、外部の業者に依頼して写真販売をしています。 • 0、1、2歳児は保育参加、3、4、5歳児は保育参観を行っています。保育参加・保育参観は、基本的に期間を定めていますが、保護者の事情を考慮して柔軟に対応しています。懇談会に出席できなかった場合は、お迎えのときに資料を渡し、担任から口頭でも伝えていきます。 	




評価領域Ⅲ 地域支援機能

<p>評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>	<p>評価結果</p>
	
<p>・地域の親子に向けて、一時保育、園庭開放、マイ保育園登録を行っています。地域住民に対する相談事業も行っていますが、地域住民との交流がなく、地域の子育てニーズ、園に対する要望などを把握するまでには至っていません。地域住民の協力で園庭に畑を造ったり、梅の実を提供してもらうなどの関わりから野菜の栽培のアドバイスをもらう等、定期的に交流をすることが期待されます。鶴見区の保育園園長会に参加して、鶴見区の保育事業・マイ保育園の報告をしています。また、横浜市駒岡地域ケアプラザから要請で、地域の0、1、2歳児を対象とした保育イベントに協力して、手作りおもちゃや離乳食のアドバイスをしています。</p>	
<p>評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>	<p>評価結果</p>
	
<p>・地域住民に向けて育児相談を実施していますが、相談日は特に設けていません。地域住民に夏まつり開催の案内・招待をしていますが、育児相談を行っていることを玄関や門扉などに掲示する等、地域に周知することが期待されます。</p> <p>・関係機関や地域の団体等のリストは作成してはいますが、鶴見区子ども家庭支援課、横浜市駒岡地域ケアプラザとは、日常的に連携する体制があります。</p>	




評価領域Ⅳ 開かれた運営

<p>評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>	<p style="text-align: center;">評価結果</p> <p style="text-align: center;"></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を園の夏まつりに招待しています。中学生の職場体験の依頼があり、受け入れのため連携を図っています。また、地域の育児サークルから依頼があり、園のテラスでプールを貸し出し、20組の親子がプール遊びを楽しみました。 ・園の近くには、横浜市農村生活館・みその公園「横溝屋敷」があり、散歩などで訪れています。散歩等、外出先ですれ違う地域住民と挨拶や会話を交わしています。近隣の梅林の持ち主から梅の実の提供があり、5歳児が梅ジュースを作っています。近隣の高齢者施設と協力して行事を行ったり、定期的に交流をしています。また、地域の保育園5歳児の集まりに参加して、交流をしています。 ・横浜市農村生活館みその公園「横溝屋敷」のどんど焼きの行事に参加しています。地域の商業施設・トレッサから案内があり、遊戯場での遊びの体験をしています。また、ペットボトルのキャップを集めて、トレッサの回収箱に持って行き、花の種と交換しています。 	
<p>評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p>	<p style="text-align: center;">評価結果</p> <p style="text-align: center;"></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットは、自治会などに配布しています。また、インターネットの保育所紹介サイトに情報を提供しています。「保育園のご案内」に延長保育の時間、料金を載せて知らせています。 ・見学者には、パンフレットに基づいて保育方針や保育目標、サービス内容などを説明しています。 ・利用希望者からの問い合わせには、園長、主任が常時対応できるようにしています。見学希望者には、日程や時間を希望者の都合に合わせて対応しています。 ・見学者には、パンフレットに基づいて保育方針や保育目標、サービス内容などを説明しています。 	
<p>評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p>	<p style="text-align: center;">評価結果</p> <p style="text-align: center;"></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れの実績がないので、ボランティア受け入れのマニュアルを整備して、ボランティアとして協力関係を築くなどの取組が期待されます。 ・実習生の受け入れにあたり、職員の保育マニュアルに基づいて園の基本方針、利用者への配慮などを説明しています。また、事前に職員に口頭で知らせ、保護者には掲示をして知らせています。実習プログラムは学校からの要望に合わせて決めています。また、実習生の要望についても考慮しています。学校側の担当者が来訪した際には実習生を交えて意見交換をしています。今後は、実習生の受け入れのためのマニュアルを策定し、取組を継続することが望まれます。 	

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類V-1 職員の人材育成	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 職員の研修担当は主任が務め、研修計画を作成しています。内部研修を実施するほか、横浜市や鶴見区などが主催する外部研修に積極的に参加しています。研修を受けた職員が記録した報告書を全職員が共有するとともに、職員会議でも報告して、研修の成果を職場で活かしています。 • 非常勤職員にも業務マニュアルとして「えみ保育園保育マニュアル」が配布されており、職員と同様に外部研修や職員会議に参加し、保育計画の立て方を学ぶ等、資質向上に向けた取組を行っています。非常勤職員の指導担当は主任が務めています。業務やクラス運営は、必ず、職員と非常勤職員の組み合わせとなるようシフトを作成し、職員間のコミュニケーションが図られるよう配慮しています。 • 人材育成計画は策定するまでには至っていません。今後は、職員一人一人の資質向上に向けた目標を毎年設定して、達成度の評価を行う等、園の理念や方針をふまえた保育を実施できるよう計画的に人材を育成する仕組みを構築することが期待されます。 	
評価分類V-2 職員の技術の向上	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 外部研修などに参加して得た情報などを職員会議で取り上げ、話し合っています。必要に応じて鶴見区のネットワーク専任保育士に保育現場を見てもらい助言を受ける等、外部から保育技術の指導を受けています。 • 保育士等一人一人が「保育の計画」の振り返りを文章化できるように計画や記録の書式が定型化しています。自己評価は子どもの成長や意欲を大切に、結果だけでなく取り組む過程の子どもの言動を重視して行い、実践を改善したり新たな課題を設定する等、次の保育計画に反映しています。また、保育士等の自己評価をクラス会議で報告し、意見交換をしています。リーダー会議や職員会議で実践の自己評価を良く話し合い、園全体の課題については全職員で改善に取り組んでいます。 • 園としての自己評価は行っていませんが、今後は取り組む予定としています。 	
評価分類V-3 職員のモチベーションの維持	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 職員のモチベーションを高めるために、研修や話し合いを行っていますが、経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されるには至っていません。今後は、レベル別の期待水準を作成し、職員の目標を設定することが望まれます。 • 現場の状況に応じて自主的に判断できるよう、最終責任は園長にあることを明確にして、可能な限り職員に権限を委譲しています。 • 職員会議やリーダー会議で職員から業務改善の提案を募り、意見を聴取しています。 	

評価領域VI 経営管理

<p>評価分類VI-1 経営における社会的責任</p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> • 守るべき法・規範・倫理などは、就業規則の服務心得や保育マニュアルに明文化されていて、職員に周知されています。また、不正、不適切な事案を題材にして、個人情報の取り扱いや守秘義務の研修を行ない、それらの行為を行わないよう、職員に啓発しています。 • 資源ごみ回収やエコキャップ活動等、ゴミ減量化のための取組や牛乳パックのベンチ等、リサイクルのための取組を行っています。また、LED照明や園庭の芝生化等、緑化推進のための取組を行っています。今後はさらに、環境配慮への考え方や、環境改善の取組について明文化することが望まれます。 	
<p>評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> • 保育の理念・保育姿勢が明文化されている「えみ保育園保育マニュアル」、「保育園のご案内」、「事業計画」などを職員に配布しています。また、年度初めや職員会議で周知を図り、理解を促すための説明をしています。今後はさらに、職員の理解度について、定期的な確認を行う取組が期待されます。 • 職員全体で検討し、取り組んだ事例として、送迎時などに保護者とのコミュニケーションを図る機会を確保するため、勤務時間延長について職員が話し合いを行い、意見をまとめ、運営法人に提案しました。 • 主任は、各保育室を回り保育の支援をする等、個々の職員の業務状況を把握しています。また、体調や保育の様子などに気を配りながら、声かけや援助を行い、必要に応じて相談を受ける等、個々の職員が良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。 • スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムがないので、今後は保育士の専門性を高め、保育の質を向上するため、スーパーバイザーを育成するプログラムを整えることが望まれます。 	
<p>評価分類VI-3 効率的な運営</p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> • 運営法人と連携を取りながら、事業運営について、鶴見区施設長会議、研修会に参加して情報を収集・分析しています。また、重要な情報はリーダー会議、職員会議などで話し合い、職員間で共有しています。 • 今後の園の方向性について、現況を踏まえて話し合う等、園全体で取り組んでいます。今後はさらに、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成し、単年度の計画に反映することが望まれます。 • 次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成するまでには至っていません。 • 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れるまでには至っていません。 	



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

■実施期間：平成 27 年 12 月 1 日～12 月 15 日

■実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付し、評価機関に直接送付してもらった。

■回収率：配付 73 件、回収 41 件、回収率 56.2%

*文中の満足度とは「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合を足したものです。

【結果の特徴】

問1「保育目標、保育方針」について 43.9%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えていて、答えた人の 94.7%の保護者が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。逆に「まったく知らない」「あまり知らない」と答えた保護者は 29.3%でした。

問2～問7の中で満足度の高い項目を挙げると、

- ・ 戸外遊びを十分しているか（97.6%）
- ・ クラスの活動やあそびについて・お子さんが大切にされているか・お子さんが保育園生活を楽しんでいるか（以上 95.1%）
- ・ 園のおもちゃや教材について・園外活動について・友達や保育者との関わりについて・給食の献立内容について・お子さんへの体調の気配りについて（以上 92.7%）
- ・ お子さんの様子や成育歴などを聞く対応・お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか・職員は話しやすい雰囲気、態度であるか（以上 90.3%）

などで、その他の項目も「遊び」「生活」「職員の対応」については一部を除いて 90%近くの満足度となっています。

一方他の項目に比べると満足度がやや低かったものを挙げると、

- ・ 年間の保育や行事に保護者の要望がいかされているか（56.3%）・お子さんの様子に関する情報交換（63.5%）・見学の受け入れ（65.8%）・感染症の情報提供について（67.3%）となっています。

また、「不満」「やどちらかといえば不満」が上記以外で多い項目は・保育中にあったケガに関する保護者への説明など・外部からの不審者侵入を防ぐ対策につて・保護者の要望や意見への対応について（以上 22.0%）となっています。

保育園の総合満足度は、90.3%（満足 41.5%、どちらかといえば満足 48.8%）となっています。個別の意見では「自然環境を取り入れ、手足を使った活動が多く、健康的」「自然の中での遊びを沢山出来て子どもも楽しんでいる」「園で様々な体験が出来て良い」「先生の対応が丁寧で安心してお願いできる」「連絡帳に日々の様子を書いてくれて読むのが楽しみ」という肯定的な意見がある中、「急に先生が辞めて、新しい先生の名前がわからない」「先生の入替わりが激しい」「先生の写真を貼るなり、名札を付けて欲しい」「意見箱の設置は有難いが、場所が悪い」という声もあります。保護者の心配や不安が取り除かれる取組が期待されます。

えみ保育園 利用者家族アンケート集計結果

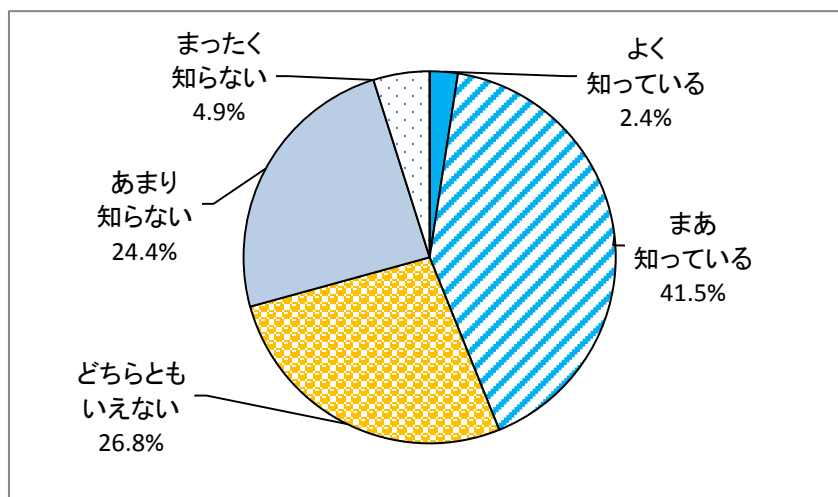
実 施 期 間	平成27年12月1日～12月15日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	73 件
有 効 回 答 数	41 件
回 収 率	56.2 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	8	8	10	6	6	3	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

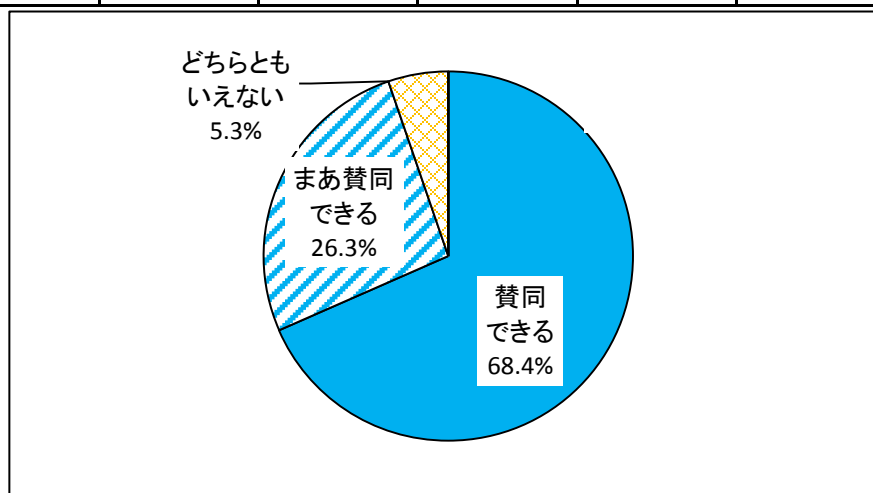
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	2.4	41.5	26.8	24.4	4.9	0.0	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
	68.4	26.3	5.3	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	36.6	29.2	9.8	0.0	24.4	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	29.3	56.1	7.3	0.0	7.3	0.0	
園の目標や方針についての説明には	24.4	51.2	17.1	0.0	7.3	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	41.5	48.8	2.4	0.0	7.3	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	34.1	51.2	9.8	0.0	4.9	0.0	
費用やきまりに関する説明については	29.3	48.8	14.6	2.4	4.9	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	29.3	51.2	19.5	0.0	0.0	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	17.1	39.0	29.3	7.3	7.3	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	51.2	43.9	4.9	0.0	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56.1	41.5	2.4	0.0	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	53.6	39.0	7.3	0.0	0.0	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	61.0	31.7	7.3	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	43.9	48.8	2.4	2.4	2.4	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.8	39.0	7.3	2.4	2.4	0.0	

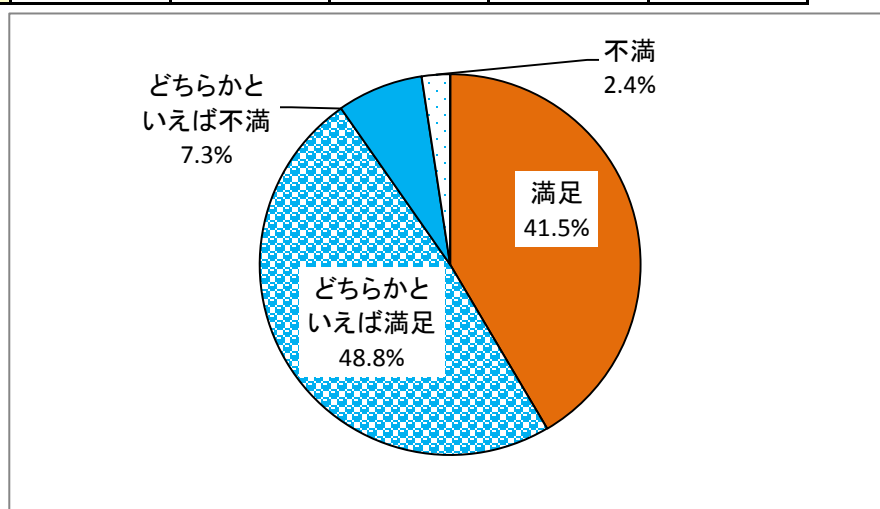
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	70.7	22.0	4.9	0.0	2.4	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	63.4	24.4	7.3	0.0	4.9	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	63.4	24.4	4.9	4.9	2.4	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	68.3	19.5	9.8	2.4	0.0	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	53.7	26.8	2.4	2.4	12.2	2.4	
お子さんの体調への気配りについては	56.1	36.6	4.9	2.4	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	41.5	36.6	17.1	4.9	0.0	0.0	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	56.1	24.4	12.2	2.4	2.4	2.4	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	48.8	41.5	7.3	0.0	0.0	2.4	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	22.0	48.8	22.0	4.9	0.0	2.4	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	39.0	29.3	26.8	0.0	2.4	2.4	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	34.1	43.9	17.1	2.4	0.0	2.4	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	34.2	48.8	9.8	4.9	0.0	2.4	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	34.1	51.2	9.8	2.4	0.0	2.4	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	22.0	41.5	29.3	4.9	0.0	2.4	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	29.3	53.7	9.8	7.3	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	41.5	46.3	9.8	2.4	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	43.9	39.0	4.9	2.4	9.8	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	51.2	43.9	2.4	2.4	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	61.0	34.1	2.4	2.4	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	41.4	39.0	7.3	2.4	7.3	2.4	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	36.6	53.7	4.9	2.4	2.4	0.0	
意見や要望への対応については	31.7	46.3	14.6	7.3	0.0	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	41.5	48.8	7.3	2.4	0.0	





利用者本人調査

【実施概要】

- 実施日時：平成 28 年 2 月 12 日、2 月 15 日
- 実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

0歳児は9名です。おやつが終わると体操をします。CDの音楽に合わせて上手に片足を挙げています。音楽は食べ物の歌のようで、最後は手を合わせて「ごちそうさま」で終わりました。体操のあとは、園庭で遊びます。テラスの階段を後ろ向きで上手に降りていきます。園庭で走ったり隠れたりしたあとは、園庭の外に出て、真っ直ぐな路地を探検します。畑のところではキャベツの葉を拾い、水たまりでは足踏みをして、水が跳ね返るのを見て楽しそうにしています。広い道に出たところでゴールです。先にゴールした子どもが、ほかの子どもを迎えに来ました。元気よく遊んだあとは、テラスの階段を登って保育室に帰ります。子どもたちは元気で保育士が手作りしたジャングルジムに登ったり、ビーチボールを追いかけてりして給食の時間まで遊びました。

●1歳児クラス

朝のおやつを終えて、ピアノの伴奏に合わせて歌を歌ったあとは、月齢の高い子は、2歳児クラスの子もたちと一緒に公園に散歩に行きます。途中でトラックが通ると運転手に「バイバイ」とみんなで手を振ります。横断歩道では、「右を見て、左を見て」車が来ないことを確認してから渡ります。「ねこちゃんいないね」「どんぐり、あるかな」楽しそうに話をしながら歩いています。公園に行く途中のなだらかな傾斜のところでは、保育士が「自分のペースでいいからね。気を付けて登ろうね」と声をかけます。2歳児クラスと歩くペースに差があり、間隔が空くと、2歳児の子どもたちは少し待ってくれます。ぐずったり、泣いたりする子はいません。みんな頑張って歩きました。公園では、芝生でごろごろ転がったりして遊びました。かけっこをしている子どもは、転んでもすぐに起き上がり、また元気に走り始めました。

●2歳児クラス

2階のウッドデッキで1歳児と2歳児が、元気に遊んでいます。ウッドデッキを走ったりソフトブロックを転がしたりしています。合同保育のあとは、保育室で手洗いとうがいをし、おやつになります。おやつのはじめは、公園に散歩に行きます。上着を着て、帽子をかぶって、玄関で靴下と靴を履きます。みんな手助けを必要とせず、自分たちで上手にできます。園長先生に「行ってきます」の声をかけて、お友達と手をつなぎ、2列になって歩きます。公園では、アスレチックのロープ、ポール、乗り物の遊具などで思い思いに遊びます。人気の遊具に子どもたちが集まり、「かわって」と声をかけて代わってもらいます。砂場で山を作っている子どもの側で、砂をいじっている子どもがいます。山を作っていた子どもが、砂をいじっていた子どもに「やめて」と言うと、保育士が仲介します。「一緒にやりたいの、入れてっていえば」と促すと「入れて」と言って一緒に大きな山を作り始めました。

●3歳児クラス

登園後は3、4、5歳児が合同で遊びます。ブロック、絵本、パズル、知育ブロックなどのコーナーで思い思いに遊んでいます。保育士の「12になったから、お片付けをします」の声かけで片づけたあとは、保育士が絵本を読みます。3歳児クラスの子どもたちは、マットに座り、静かに聞いています。

3歳児は、今日は園庭で遊びます。園庭では、保育士が投げるボールを受けたり、ボールから逃げたりしています。ロッククライミング式の登り棒も怖がることなく、登っています。

給食の時間では、椅子、コップ、箸セット（箸、スプーン、フォーク）を自分で用意して、好きなテーブルに行って配膳されるのを待ちます。主菜、副菜が配膳されて主食と汁物を待っている間、「野菜の数を数えてね」という保育士の声かけで、主菜と副菜に使われている野菜を数えています。「1、2、3・・・」みんな夢中で数えていました。

●4歳児クラス

朝の合同保育のあとは、散歩のときに観察した梅の制作活動を行います。保育士が「この前の梅、覚えているかな、どんな色だった」と聞くと、子どもたちが「白」「ピンク」と答えます。「そう、ピンクの花があったね、花はどんなだった」と聞くと「まる」、「枝ってどんなだった」の問いかけには「ほそい」「ながい」と答えています。保育士が上手に子どもたちの観察力を引き出しています。制作活動が始まる前に保育士から、「指先でしっかり千切って、思い思いの細さにします。折り紙を全部千切ってから糊を付けてください。」など、活動で注意することを聞きます。千切った折り紙が飛ばないように、どうしたら良いか保育士が子どもたちに聞くと、お道具箱を使うことを子どもたちは分かっていました。

●5歳児クラス

5歳児は活動のあとに着替える服の準備を、自分たちで行います。一組ずつゴムでまとめて、洋服の入っていた袋を丸めてケースに入れます。準備が終わると、保育士のピアノに合わせて朝の歌を元気に歌います。歌の最後には、ピアノの曲に合わせて一人ずつ名前が呼ばれ、一人ずつに「元気ですか」と保育士が聞きます。子どもたちは曲に合わせて「元気ですよ」と答えています。

ひな祭りの製作活動のあとは、園庭で遊びます。ドッジボールをしている子どもは、ボールを投げるときは、砂場で遊ぶお友達のほうにボールが行かないよう気を付けています。砂場では、シャベルで溝を掘っています。保育士が、「大きなお城を作れば」と声をかけると、子どもたちが集まってきて、みんなで大きな砂の山を作りました。園庭でドッジボールをしたり、走ったり、砂で大きな山を作ったりして遊んだ子どもたちは、給食のときに食欲旺盛でした。



事業者コメント

第三者評価を受けて

今回、開園3年目で、第三者評価を受けることにしました。

この3年間は決まったマニュアルなどの整備が出来ていない中でのスタートとなり、子どもたちの未来を思いながらも、試行錯誤をしながら無我夢中で走ってきた時間でした。

今回、一度立ち止まり、職員全員で日々の保育を振り返る時間が持てた事はとても幸せな事でした。取り組みが不十分だと認識していた事項はもちろんですが、知識としては分かっているはずの事、マニュアルとしてやるべきはずの事が、しっかりと実践出来ずにいたことなども浮き彫りになり、反省し、改善の一步を踏み出すことができました。

また、保護者アンケートでは、保護者との認識の違いに気が付かされ、したつもり、出来たつもり、の気持ちが大きかったのだと気づきました。保護者の方と、しっかりと伝え合う、わかり合えるようなコミュニケーションをとる意識を改めて痛感したところです。

今回の結果を、しっかりと検討し、子どもたちの未来のために、保育の質を高めていくことに努力をしていきたいと考えています。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室
TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118
<http://www.yresearch-center.jp>

